

# CHICKEN RACE

written by HADEYA

## 1

アクセルを踏んだ。闇雲に。左車線と右車線を交互にビュンビュン飛ばしている。連中に捕まらない為。

「全く、しつこいと思ったらありやしねえ」

愛車の時速はグングン上がっている。首都高四号線は袋小路だ。んな事は言われなくても分かっている。

争点は、俺が何故、逃げているか、だ。

.....実は先程、殺人を犯したばかりだ。動機は一つ。部長が俺を派遣切りにしやがった事だ。

\*

「道川さんの契約を本日限りで打ち切らせて頂きます」

思わず、目をパチクリさせた。明日からどうやって生きて行けば良いのか。皆目、見当も付かない。

で、俺は今、逃げている。パトカーから。俺を全国に指名手配している警察から。

この先は先は袋小路だ。マズい.....とてもマズい.....捕まったら最後、二度と就職できなくなる。それだけは回避せねばならない。

考えるより先に身体が動いた。ギアを落としながらハンドルを一気に左に切る。キィィ！ というスキッド音と共に愛車はUターンして.....

チキンレースになった訳だ。

.....俺は思う。今日の晩御飯は何にしよう、と。フィッシュバーガー？ それとも血の滴るステーキ？

「たらふく食べよう」

呟いた。このレースに勝てば、俺の人生はやり直しが効く。負ければ.....

首を振った。負けるなどと言う選択肢はない.....あつてはならない.....ならないんだってば！！！！

カーオーディオからハイスピードのワグナーが流れる。シンセサイザーで現代風にアレンジされたトラックだ。

俺は.....アクセルを踏んだ。迫り来るパトカーに向かって突っ込んで行く。勝つのは俺か、連中か。

ヤニ汚れした黄色い歯を剥き出しにして———

「.....見てろよ」

ギアをトップに入れた。車体が引っ張られ、愛車がグングン加速して行く。そして———

君はどっちが勝ったと思う？ 俺か、それとも俺を捕まえようとする輩か。

俺は<君>だ。君は今、愛車を最高速度で飛ばしている。自分を取り締まろうとする輩に突っ込みながら。君は呟く——ブツ放そうぜ、と。名案だ。ブツ放そう。君自身の全てを賭けて。超えてはならない一線を越えてしまったんだ。君は。ケツに火が点いたら最後、走るしかない。本当にそれしかない。

突っ込んだ。鯨のように群がるパトカーの一群に。SHOWTIME。実際に勝ったのは——君だ。君は人生を、そして世界を得た。君は絶叫し、涙した。そして君は、

確実な進化を遂げた。絶対確実な進化を。君は人生に勝った。その証拠に君の「恐怖」は跡形もなく、吹っ飛んだ。(ア)

キリミハデヤ

hadeyakirimi@gmail.com

81-080-9832-0574

モリカワ ケンタロウ 口座番号

三井住友銀行(店番号232) 普通口座 口座番号:7342872